

昨日一日降り続いた激しい雨も今日は上がって、本格的な夏へ移って行くこの時期、恒例の対大阪府立大学との定期戦に臨むための首都大学東京体育会結団式に同窓会代表としてお招き戴き、誠にありがとうございます。

御存知の事と思いますが、高橋晃会長が去る4月21日に急死され、副会長の私とその後任期一杯、会長代行を勤めるよう同窓会理事会から申しつかって居ります。

又、私も副会長として四期ご奉仕致し、今期で退任致しますので、結団式で学生アスリートの皆様に御挨拶申し上げるのも、今回は最後となり、僭越ではございますが少し「平和」について、私の思いを伝えさせて戴きたいと思います。

沖縄慰霊の日の去る23日（日曜日）現地の平和祈念公園では「沖縄全戦没者追悼式」が営まれ、仲井真沖縄知事他、多数の要人が参列し、挨拶を述べていました。

後半になって、沖縄県・与那国島で暮らす小学一年、安里有生君(6)<sup>あきとゆうきくん</sup>が、平和の詩「へいわってすてきだね」を朗読し、その姿、その声、その詩の内容がテレビに映し出されたのを見、聞きして、感無量、胸が一杯になりました。

第二次世界大戦の終了した年、1945年、私は国民学校(当時は小学校をこう称した)一年生で、正しく彼と同じ年代だったからです。「当時の辛い日々を耐えていた小学生達ってあんなにもいとけない小さな生き物だったのかしら！」と今や後期高齢者と呼ばれる世代に突入しようとしている私は思いました。気がつけば日本国民の80%は日本が米国を中心とする連合国と戦争をして、敗れ、その戦いの犠牲者二百万人によって築かれた死屍累々の山の上に建てられた墓標とも位置付けられるのが現在の平和憲法であって、その庇護によって、今に至る68年間の平和がとにもかくにも保たれていることを知らない世代になっているのです。残りの20%、戦争を体験した私共高齢者は最早や、絶滅危惧種に等しい存在だと痛感させられました。

現在の平和な時代に生を受け、育った人達に取っては、それは空気のように当たり前の環境であって、年上の者が、そうではなかった厳しい過去の時代について話すのを聞くのは煩わしく、餘所事としか思えないのかもしれませんが。「温故知新」という言葉をご存知でしょう。今、自分達が享受している平和という名の幸せ、それを自分達一代で使い切ってはいけないのです。感謝しつつ、子々、孫々に伝えて行くものです。それはどのような歴史を経て得られたのかを学び、守って行かなければ、あっという間に失われてしまいます。

皆様方も、体力だけではなく、知力も、学生生活で学び、社会に貢献していただきたいと思えます。

この定期戦も還暦を過ぎ、新たな出発を迎えます。今までの負越は忘れ、勝利に向かって、一致団結して、戦って下さい。

勝利を期待しております。